

導入事例

安全運転管理

業務効率化

保有検知器対応

株式会社大塚商会 様

システムインテグレーション事業

3,700名のアルコールチェック管理がシンプルかつ確実に！DXを推進する大塚商会が選択したアルコールチェック義務化施策は？



人事総務部総務課
吉見 正之 様

プラン : シンプルプラン
導入時期 : 2022年9月
車両用途 : 営業/技術部門の社員がお客様先へ訪問
管理車両 : 社用車（四輪、二輪）、レンタカー



背景・課題

月5万件の記録をまとめて確認、現場の状況を把握しきれず管理者の業務負担増大

従来は、現場管理者が対面で確認の上エクセルに記録、1か月分を本部にまとめて提出していました。提出した全記録を本部側でも再チェックし、データを集計していました。

課題として、本部側では対面チェックの確認内容をリアルタイムに確認できないこと、現場管理者のエクセル入力の手間、本部側でのデータ集計において、作業負担が掛かっておりました。



導入の決め手

既存の検知器を使用してすぐにクラウド運用できるシステムがマッチ

当社はDX推進のためのソリューションをお客様にご提案しています。アルコールチェック義務化においても、DXにつながるソリューションをお客様に提供する立場としてクラウド管理を検討しておりました。当社では、複数メーカーのアルコール検知器を商材として取り扱っているため、①検知器の種類を問わず利用できる②結果をクラウド管理できる③コストメリットがよく導入を始めやすいところを中心に検討したところ『スリーゼロ』がマッチしていました。加えてシステムの操作性がシンプルだったところもポイントでした。

導入後の効果

アルコールチェック業務の負担軽減に加え、本部でも利用者状況をリアルで把握

現場管理者からは、検査結果をエクセルに入力する手間や本部に提出する管理業務の負担が軽減されたと反響がありました。運転者は、アルコールチェックした記録を、アプリを使って簡単に登録できるので、問題なく迅速に導入出来ました。

本部管理者としては、アルコール検知器の測定結果が『スリーゼロ』経由で自動的に登録されるため、全運転者の状況をリアルタイムで把握できるようになりました。

今後の期待

管理業務のさらなる効率化に向け、他の業務サービスとの連携を期待

『スリーゼロ』はシンプルな操作性なので、導入してから特に大きな混乱もなく社員もスムーズに利用できております。当社ではお客様に、DX推進のソリューションをご提案しているので、今後の期待として『スリーゼロ』が、各種社内サービスと連携ができればと考えております。車両管理システムや勤怠システム、人事データなどと簡単に連携できると管理業務の効率化にも寄与すると思っておりますし、社内で実践した内容をお客様へご提案できると考えております。